

令和元年度 中学校卒業式 お祝いの言葉

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日ここに義務教育九年間の全課程を修了され、晴れて卒業のときを迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、喜びもひとしおのことと思います。

ただいま皆さんは、校長先生から中学校三年間の課程を修了した証である卒業証書を受け取りました。皆さんの清々しい表情からは卒業の日を迎えた喜びと、これからの人生に対する大きな期待が満ちあふれており、その堂々とした姿は頼もしいかぎりです。

ここで、新たな進路に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会から、お祝いの言葉を贈ります。

昨年、日本人で8人目となるノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんを知っていますか。

吉野さんは、携帯電話や電気自動車などの電源に使用されるリチウムイオン電池を開発し、情報社会の広がりとクリーンエネルギーの普及に貢献した方です。このリチウムイオン電池は、タブレット端末などの小型軽量化を加速する原動力となり、「IT社会を進化させ続けただけでなく、人工知能などの新しい技術と組み合わせることで、環境や経済、さらに人々の生活を豊かにすることが期待され、持続可能な社会づくりの中心的な役割を果たすものとして、大きな評価を受けています。

もうすでに私たちの生活に定着しているリチウムイオン電池ですが、その開発の過程では水に触れると燃えやすく取扱が難しいことなど、安全性を確保するために多くの課題がありました。吉野さんも研究を進める中で数十年にもわたり成果が出ない研究を続けることに苦心され、開発を断念しそうになることもあったそうです。けれども、吉野さんはこの電池の実用化に情熱を注ぎ研究を重ね、難しいといわれたリチウムイオン電池の開発に成功しました。

その吉野さんは、ノーベル賞を受賞した後の会見で「成功の秘訣は柔軟性と執着心」と語っています。諦めずに信念を持って執着することと同時に、いくつになっても新しいことを吸収し、変化を厭わない柔軟かい考え方を持つことで、研究は前に進んでいくと信じ、この電池の開発に挑戦し続けました。この相反するような2つの素養を上手に駆使し、強い意志のもと、様々な方法を試み、より良い選択を行いながら粘り強く取り組んだのです。

さて、卒業生の皆さんは、これから、それぞれが選んだ道を、自分の力で切り開くこととなります。新たな出会いや喜びがたくさん待ち受ける一方、辛いことや思い通りにならないことにつながることもあります。けれども、これからの新しい未来へ向かい、柔軟性を持ち、諦めずに誠実に努力をし続け、人生の道を切り開いていってください。

結びに、卒業生を今日まで愛情をもってご指導いただきました釵持 利行校長先生をはじめ教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみないご支援とご協力を賜りましたPTA並びに地域の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、88名の卒業生の皆さんの御健康と御活躍を心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

令和二年三月十九日

港区長 武井 雅昭

港区教育委員